
冒険の書～シゲルは行く～

M吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冒険の書〜シゲルは行く〜

【Nコード】

N3047D

【作者名】

M吉

【あらすじ】

高校1年生になったシゲルはある日、勇者になることを志して：

タイYO！系に属す惑星

「TQ」。物語はここで始まる。主人公はこの俺、シゲール・タナカ、15歳だ。そろそろ旅に出たい年頃、つまり反抗期を迎えている。

俺はある朝、ついに母親に旅立ち、いわば家出宣言をかました。

「母さん、俺魔王を倒すために旅に出ようと思うんだ…」

魔王は名をソーリと言い、トウキョウシティに君臨し、この俺が住まう国、ニホンを支配しているのだ。

「何馬鹿なこと言っているの！とにかく朝ごはんを食べなさい」

俺は母に言われるままに、朝ごはんを食べた。そして…

「母さん、俺…」

「早くしないと、遅刻するでしょう、急ぎなさい」

母は攻撃の手を緩めず、俺に反撃の余地を与えなかった。魔王を倒す前から、とんだ手ごわい敵に遭遇したものだ。俺は今朝に永遠の好敵手、メザマシ・ド・Kを倒してきたと言うのに、それでもまだ駄目だと言うのか…くそ、無念。

とりあえず、俺はガッコーに行くことにした。そこなら人も多い。きつと共に魔王を倒す仲間も見つかるはずだ。

「よし…」

俺はボディにガクランを装備した。

「行ってきます」

かくして俺の冒険の書は始まった。序盤だから、遠くにも行けないし、敵もまだまだ弱いはず。加えて所持金は昨日貰ったお小遣いが千円のみだ。

ガッコーまでは片道10分。いつもはなんてことのない、わずかな道のり。しかし今日に限っては長く感じた。いや、実際に長かったのかもしれない。たかだかガッコーに向かう間、シゲールには数々の試練が待ち受けていた。

実は、何だかんだやっている間に、遅刻まであと10分に迫っている。はっきり言ってギリギリだ。さっき俺は見栄をはってしまった。本当はガッコーまで10分ではたどりつけない。正確には10分と46秒を要す。嘘を言ってしまったてすまない…。だから、本当のところ、普通にガッコーに向かうとこのままではアウトなのである。

マズイ…。

カウントダウンは既に始まっている。

しかしこんな時に限って、俺は雑魚キャラに足止めをくった。普段は気にならないはずのシンゴは、この時とばかりに、赤く光って俺の前に立ち塞がった。あざ笑うかのように上から見下ろすシンゴ1。俺は手を出すが出来ず、硬直する。一分一秒を争うこんな時に…俺は焦っていた。

奴に構っている暇などない。かくなるうえは…逃走！

俺は信号無視を決め込んだ。

「…はあ…はあ。逃げ切れたか…？」

後ろを振り返っても、シンゴーが追いかけてくる様子はなかった。

―よし…。

一難は去ったものの、まだ安心は出来ない。俺は額から流れる汗を拭い、慎重かつ最速で歩いた。

ガッコーまではあと少しだ。そんな時、俺の目に飛び込んできたものは予想外の光景だった。む、サブイベントの予感!!

目前には昨日までは存在しなかった立て札と、赤い三角のコーンが、路上でフォーメーションAをとりながら待ち構えているではないか。

「しまった!待ち伏せされた」

既にガッコーは視界に入っていると言うのに…そう易々とは通らせてはもらえないということか?……いいだろう、この挑戦受けてたとう!俺はこの場を全力で通り抜ける覚悟だ。

シゲール・タナカ、行きます!

「ちょっと君、この看板が見えないのか?ここは工事中だ。危ないから今すぐ出ていきなさい」

「大丈夫です。この程度、僕にはなんてことはありません。僕、勇者ですから」

「そういう問題じゃないよ、君。悪いが今日は回り道してくれ」

今ここを通れば間に合うはずなのに…神は俺に試練を与えようと言うのか?何て出来すぎたストーリーだ。

しかし俺は譲れない。

冒険の書がスタートしたこの記念すべき日に、主人公のこの俺が、試練などに屈するわけにはいかないのだ。

「お願いします、ここを通してください」

「お願いしますと言われても…困るよ」

「お願いします。駄目と言われても、意地でも通らせていただきます」

暫く攻防が続いた。そしてついに…

「君にはまいったよ。そこまで言うのなら通りたまえ」

勝った！俺はついにこの戦いを制した。所要時間15分。実は素直に遠回りした方が早かったという…。

俺は勝利の高揚感からスキップしながらガッコーの校門の前までやってきた。

「あ…」

遅刻決定。

1人遅れて教室に入った俺を、さらなる試練が待ち受けていた。

「田中、そんなんではソーリなんて倒せないぞ？」

何でタンニンが知っているんだ！？そしてクラス中が爆笑の渦になっている。俺は恥ずかしさのあまり赤面した。

「あ、田中君顔が赤ーい」

イジメか？俺はイジメにあっていたのか！？軽くショックだ。
折角数々の苦難を乗り越えてまで、仲間を求めてここまでやってきたというのに。

はっ！仲間…？いいや違うな…。俺は確信し、1人頷いた。

こいつらはみんな敵だ！何故なら俺が通うこの高校は国立。つまり魔王ソーリの管轄下にあるのだ。タンニンはコツカコムイン…。コツカコムインはソーリの忠実な僕たち。俺のように謀反を企てるものを取り締まったりするのだ。

だがしかし俺は屈しない。

倒す。

全てこの俺が――っ！

「先生ーっ、田中君が暴れました！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3047d/>

冒険の書～シゲルは行く～

2010年10月22日00時50分発行